

Cafe Emartin

第2回コンサート

2006年5月6日（土）

開場 13:00 開演 13:30

東大和市民会館ハミングホール小ホール

入場無料

ごあいさつ

本日は、私たちのコンサートに足をお運びいただきまして、まことにありがとうございます。私たちは音楽が好きで、とりわけピアノが大好きで、この「私たちの大好きなピアノ」を皆さまに聴いていただきたく演奏会を催しました。私たちは（若干1名を除いて）プロの演奏家というわけではありませんので、1人が1度に多くの曲を演奏して聴かせることはできません。それは、技術的なことのみならず精神的にも長時間の演奏に耐えられないと考えるからです。しかし、限られた時間ならば高い集中力を維持して、演奏に心を込めることができます。ですから、本当に好きで弾きたいと思う曲だけに心血を注いで大切に曲を作り込んできました。演奏には、作曲者の意図のみならず演奏者の個性が反映されます。ですが、心に描く音楽を表現できる水準まで音楽を高めるといふ作業は、大変に困難で独りではままならないこともあります。そこで、私たちは仲間同士アドバイスをして助け合いながら（ときにコテンパンにやっつけられながら）音楽を育んできました。一曲入魂。今日演奏する誰もが、その曲だけは誰よりも強く想いを込めて音楽を奏でることでしょう。

皆さまに私たちの音楽が心地よく届きますように、そして、今日、楽しいひとときをお過ごしただけでしたら幸いです。

Cafe Emartin の歴史

2005年5月21日 東京農工大学ピアノ部の新入生歓迎行事にて、第83回 Concert of the Error に参加できないが、一般のお客様の前で演奏したい部員・OBにより『夏コン第6部』を結成。11月の学園祭でコンサートを行うことを決定。

2005年11月12日 東京農工大学農学部にて第1回コンサート開催。コンサート後の打ち上げで、幅広い参加者を募り演奏会活動を継続していくことを決定。2006年春の第2回コンサート開催に向けて動き出す。

2006年1月28日 第2回コンサート初のリハーサル後、和風ネパール料理「ミトラ」（国立駅南口徒歩1分）にて、演奏会名を『夏コン第6部』から『Cafe Emartin』に改称。

2006年5月6日 東大和市ハミングホール小ホールにて第2回コンサート開催。

Cafe Emartin とは？

喫茶店を意味する『Cafe』という語と、フィンランドの作曲家 Erkki Melartin に由来する造語『Emartin』を組み合わせたもの。高級感がありながらも一般の方々に気軽に入場していただきたい、個性豊かで音楽好きの出演者達に相応しい、といった理由から決定いたしました。よろしくお願いたします。

なお、Cafe Emartin は東京農工大学ピアノ部の部員及びOBによる、東京農工大学ピアノ部の非公式コンサートです。

本日のプログラム

第1部 (13:30~14:15)

1. C. A. Debussy
「子供の領分」より 第6曲 「ゴリウオーグのケーキウオーグ」
前奏曲集第2巻より 第12曲 「花火」
梶川 佳美
2. Paul de Senneville, Oliver Toussaint
星空のピアニスト
松岡 良介
3. S. Rachmaninoff
10の前奏曲 Op.23 より 第5番 ト短調
務川 重之
4. Kenny Gorelick 作曲 麻緒岳典 編曲
THE MOMENT
山崎 利恵
5. F. Liszt
3つの演奏会用練習曲 S.144 より 第3番 「ため息」
務川 重之

第2部 (14:30~15:30)

1. L. v. Beethoven
ピアノソナタ第8番 ハ短調 Op.13 「悲愴」より 第1楽章
鈴木 みく
2. L. v. Beethoven
ピアノソナタ第8番 ハ短調 Op.13 「悲愴」より 第1楽章
牧島 信吾
3. W. A. Mozart
4手のためのアンダンテと5つの変奏曲 ト長調 KV 501
primo 松井 文
secondo 吉澤 省吾
4. 西村由紀江
手紙
河上 真一

※都合により筒井一貴による代奏となります。
5. J. S. Bach
パルティータ第2番 ハ短調 BWV826
筒井 一貴

第2部終了後に裏プログラムを用意しております。是非お楽しみください。

演奏者からのメッセージ

第1部

1. C. A. Debussy

「子供の領分」より 第6曲 「ゴリウォーグのケーキウォーク」
前奏曲集第2巻より 第12曲 「花火」

梶川 佳美

今日の会場のピアノはベヒシュタインですが、ドビュッシーが愛したピアノだそうです。

(私の認識では) ドビュッシーは近代音楽をつくり上げた人です。新しい音楽を作ったというよりも、既存のルールにのっとらない音楽を作ることを始めた人です。

ドビュッシーの音はどこかの楽譜にある音ではなく、ピアノと向き合って自分の耳でこの音だと思ったものを集めていった音のような気がします。難しいことは何もなく、ピアノと自分で作るすごく単純で純粋な音楽。

「ゴリウォーグのケーキウォーク」は、機械仕掛けの人形ゴリウォーグが、アメリカの黒人のダンスであるケーキウォークにあわせて踊る様子を描いている曲だそうです。

「花火」は、喧騒とともに人が集まる様子からお祭りの様子、お祭りの後遠くからフランス国歌が聞こえてくるまでを表現した曲だそうです。

2曲とも、できれば何も考えずに聞いてください。

独特のテンポや和音の響きを楽しんでいただけたら幸いです。

2. Paul de Senneville, Oliver Toussaint

星空のピアニスト

松岡 良介

初めて聴いたとき、このメロディーがとても気に入って、いまだに飽きのこない好きな曲です。

上手に弾けるかという「？」ですが、少しでもこの曲の魅力を伝えられたらと思います。

3. S. Rachmaninoff

10の前奏曲 Op.23 より 第5番 ト短調

務川 重之

ラフマニノフは1800年代終わりから1900年代前半にかけて活躍したロシアの作曲家です。親しみやすく美しいロマンティックな曲を数多く残しています。そのため、多少リズムを崩してでも、メロディーを歌い上げることが大切であるかのように思われがちですが、実は、ラフマニノフは音楽のリズムというものをとても大切にした作曲家です。今回演奏する前奏曲は、行進曲風の主題が4拍子で(時に変則的な2拍子を含んで)鍵盤を打楽器的に打ち鳴らします。中間部では左手の広いアルペジオの上にメランコリックなメロディーが奏でられますが、これも厳格な拍子の裏付けがあって初めて音楽が流れるように作曲されています。

と、真面目に書きましたが、この曲に関しては「やりたい放題」弾くのが最も効果的と考えていますので、リズムを正確に刻んだ上で最大限に暴れてみせます。

4. Kenny Gorelick 作曲 麻緒岳典 編曲
THE MOMENT

山崎 利恵

今回弾かせていただく曲は、Kenny Gorelick 作曲の「THE MOMENT」です。Kenny G は 1980 年代にはじまって今もなおアメリカで活躍しているサックス奏者です。この曲はどこか懐かしく暖かみのあるメロディーが素晴らしく聴いていて癒されます！穏やかな雰囲気大切に一音ずつ心を込めて弾きたいと思います。

5. F. Liszt

3つの演奏会用練習曲 S.144 より 第3番「ため息」

務川 重之

「ため息」は、アルペジオの伴奏の上に感傷的で甘美なメロディーが歌われるとても美しい曲です。また、その音域の広さゆえに右手と左手が交互に伴奏と主旋律を奏でることとなり、演奏者の腕が鍵盤上をめまぐるしく移動することから、非常に華やかな視覚的効果も持っています。大胆かつ魅力的な演奏を目指します。

第2部

1. L. v. Beethoven

ピアノソナタ第8番 ハ短調 Op.13 「悲愴」より 第1楽章

鈴木 みく

こんにちは。大学卒業とともにピアノ部を卒業して、早一年がたちました。もうなかなか人前で弾ける機会はないだろうなと思っていたのですが、こうして皆様の前で演奏することができてとても幸せに思います。選曲は偶然にも、牧島さんと同じだったのですが、それはそれで面白いということで悲愴ソナタの第一楽章を弾かせていただくことにしました。ベースも味付けもまったく異なる演奏をしますので、楽しんでいただけるかと思います。是非、表現の違いを聞き比べてみてください。そして楽しい演奏会だったと感じて頂けたら幸いです。

2. L. v. Beethoven

ピアノソナタ第8番 ハ短調 Op.13 「悲愴」より 第1楽章

牧島 信吾

クラシック音楽の演奏における一つの特徴として、演奏者によって再構築されるという点が挙げられると思います。特に、ベートーヴェンの初期のソナタ等では、現代のピアノと大きく異なる響きを有する楽器により作曲されたわけであるため、現代ピアノで演奏する場合、作曲者の意図のみを考えて演奏することが妥当であるとは思えません。

ベートーヴェンのピアノソナタの流れを見ると、古典派からロマン派への探求と見ることができると思います。その中で、初期のソナタは「古典的」と解釈されることが多いですが、随所にロマン派へと続く要素が含まれるように感じます。すなわち、初期のソナタに対するロマン的解釈も無意味なものではないのかと考えています。

以上を踏まえて、同一の演奏会内に異なる演奏者が同一の曲目を演奏することは（しかも続けて）、きわめて興味深いものを提示することが可能ではないかと考えております。特に東京農工大学ピアノ部という濃い環境で育った人間の演奏では…。

ということで、どうぞ個性豊かな悲愴たちをお楽しみください。

3. W.A. Mozart

4手のためのアンダンテと5つの変奏曲 ト長調 KV 501

primo 松井 文

secondo 吉澤 省吾

気持ちを込めて弾きます。どうぞお聴き下さい。

4. 西村由紀江 手紙

河上 真一

西村由紀江さんのアルバム「Virgin」から選曲しました。

自らの想いを自らの手で書き綴る「手紙」
自分の本当の気持ちを伝えようとする時にはやはり緊張するものです。

下書きの時の、戸惑いや恥ずかしさ。
清書の時の、手の震えや恐怖感。
それでも筆を進めるうちに湧き上がってくる少しだけの確信。

そして、封をするときの決意。
渡すときには、とても大きな勇氣。

込められた想いの分だけ重量を増した便箋。

それでも、返事をもらうまでは不安で。
想いが伝わったのかどうか、物凄く不安なままで。

そして、受け取った返事は果たして…。

…と言ったようなことを、ピアノを通じて表現しようと思っています。
拙い演奏ですが、私から皆さんに送った“手紙”が届きますように。

※都合により筒井一貴による代奏となります。

5. J. S. Bach パルティータ第2番 ハ短調 BWV826

筒井 一貴

農工大ピアノ部に積極的に関わっている人間の最長老となって久しい。部との関わりは人それぞれであるが、大学入学当時と驚くほど変わって（変わり果てて？）しまう輩がいるかと思うと、変わらないような気がするが実は本質が変わった（化けの皮がはがれた）輩あり、個性を十分に伸ばした（より個性的になった）輩あり、それはそれは多彩な人間模様が繰り広げられる。

今回の演奏会、その中でも選りすぐりの（＝特別にトンデモナイ）連中の集まりであるが、その中で唯一マトモなのがこのワタクシ。くれぐれも誤解なきようお願いしたい。

裏プログラム

第2部終了後に有志による裏プログラムを用意しております。お時間のある方は是非合わせてお楽しみください。裏プログラムは以下のような曲目を用意しております。

- W. A. Mozart ピアノソナタ第11番イ長調 K.V331 より第3楽章「トルコ行進曲」
- W. A. Mozart ピアノソナタ第13番変ロ長調 KV.333 より第1楽章
- F. P. Schubert 即興曲 Op.90 より 第2曲 変ホ長調
- L. v. Beethoven ピアノソナタ 30番 Op.109 ホ長調より第1楽章
- F. F. Chopin 夜想曲嬰ハ短調 遺作
- R. Schumann アラベスク ハ長調 Op.18
- E. Melartin 「悲しみの園」より「雨」

曲目、曲順は変更となる場合があります。

b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。私達の演奏が皆様の心に届くことができましたら幸いです。ご意見、ご感想等がございましたら、お手元のアンケート用紙にご記入の上、お帰りの際に受付の者にお渡しくださるようお願いいたします。

b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪ # b # ♪

東京農工大学ピアノ部公式コンサート『第85回 Concert of the Error』

日時：2006年 7月8日（土）

会場：府中グリーンプラザけやきホール（京王線府中駅前）

開演時間、プログラム等については、決定次第ホームページにてお知らせいたします。

東京農工大学ピアノ部公式ホームページ：<http://www.tuat.ac.jp/~piano/>